

## 2010年参議院選総評

政権が民主党になって初の国政選挙となった今回の参議院選挙、解党期を迎えたと言われた自民党が回復し、みんなの党が伸びた。政権を民主党に任せてみたが駄目なので自民党が回復し、その間隙にみんなの党が伸びたという構図である。それは日本の苦悩を表している。どうしようもないが民主党と自民党に、みんなの党が新しいことを言っているようなのでみんなの党にと、有権者は言っているのである。

そこをチェックする必要がある。労働組合寄りの民主党、企業寄りの自民党という考え方では日本は立ち行かない時代になっている。唯一神又吉イエスが言う日本の危機、年金・医療・介護・失業・財政・デフレ問題・ワーキングプア問題・派遣問題・経済格差問題は、来るべきところに来た日本の時代であるからだ。みんなの党はと言うと、党代表の渡辺喜美の経済成長至上主義・改革解放経済とは小泉純一郎のそれであり、遠くはイギリスの元首相サッチャー・アメリカ元大統領レーガンの新自由主義経済であり、それは（１）国内需要の伸びが終わった（２）飽和状態経済になった（３）成熟社会になった日本では終わっている。無理にやろうとすると小泉純一郎の二の舞、熾烈・激烈な競争経済によって勝ち組・負け組をつくり、経済格差社会にしかならない。

すなわち、日本は八方ふさがりの国状である。この国状を打開・解決するには本来の日本を守り、ほんとうの日本をつくることによってしかできない。それが唯一神又吉イエスの世界経済共同体日本である。そこに向かった時に日本が一つになり最大の経済力を発揮できる。それが又吉経済であり、その日本経済の概念を活性化・成長・協力・助け合いのトータル経済とする。この又吉経済を以って、日本の危機、年金・医療・介護・失業・財政・デフレ問題・ワーキングプア問題・派遣問題・経済格差問題を解決できる。これが今回の参議院選の唯一神又吉イエスの演説要旨であり、選挙総評の解決法である。

2010年7月21日 唯一神又吉イエス